

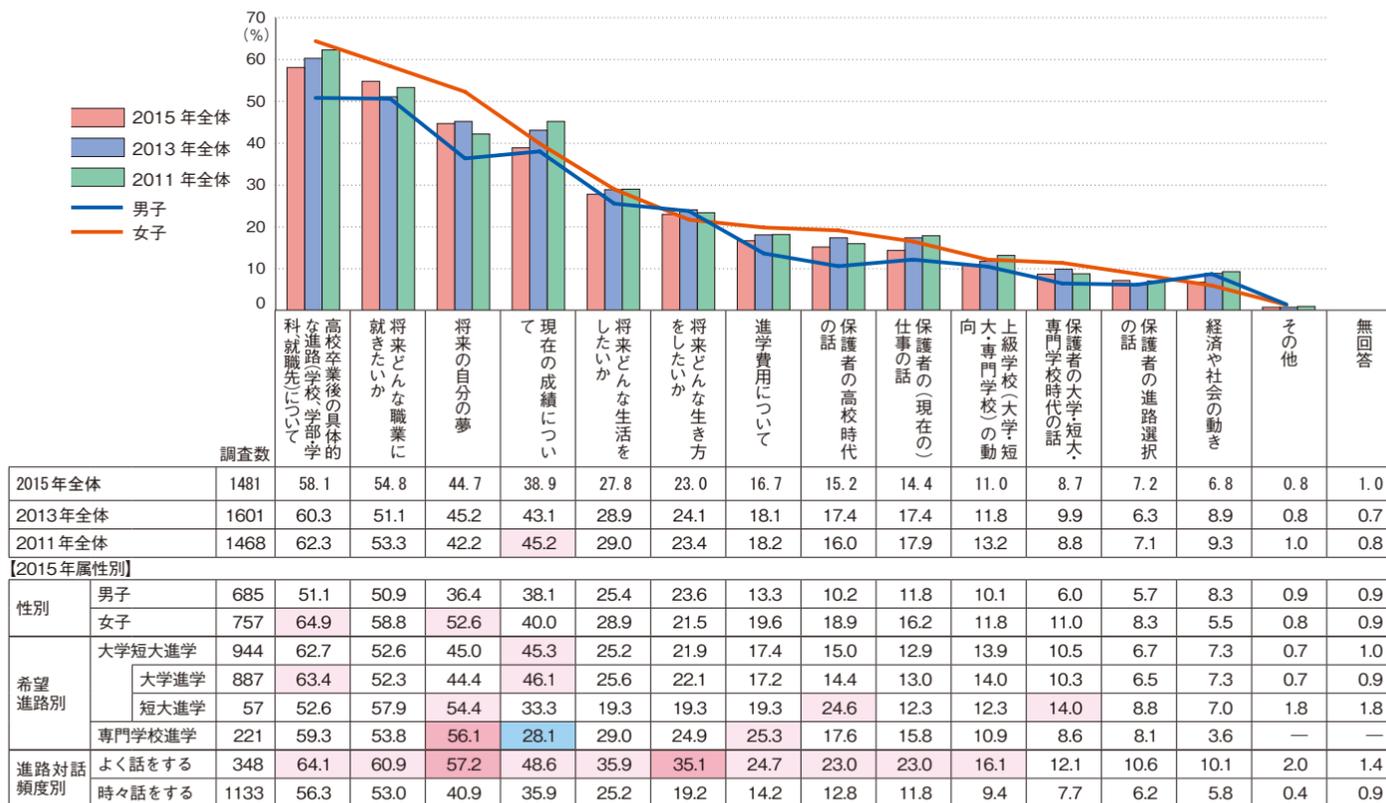
子どもの進路にどう関わっているか？ 保護者が重視する「入試制度」

子どもの進路選択への関わりを知る前に、今の保護者世代のことを押さえておく必要がある。保護者世代が生まれたのは高度経済成長期の終盤。18歳人口は現在の約1.5倍、大学進学率も34.7%(1986年)と今日の56.5%(2015年)とは大きく異なる。社会進出後まもなくバブル経済の崩壊を経験し、やがてリーマンショックを迎える。競争原理や多くの浮き沈みを経験してきた保護者は果たして、子どもの進路選択にどのように関わっているのだろうか。全国高等学校PTA連合会と小社で合同調査を行ってきた「第7回 高校生と保護者の進路に関する意識調査」からその要点をお伝えする。

リクルート『キャリアガイダンス』編集長 山下真司

【調査概要】	【回答者プロフィール】
<p>第7回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」 一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査</p> <p>●調査対象 全国の高校2年生とその保護者 (全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校26校・2年生2クラスの生徒とその保護者)</p> <p>●調査期間 2015年9月24日～10月28日</p> <p>●調査方法 ①高校生 ホームルーム時にアンケート実施 ②保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡しで依頼、実施 クラスごと学級担任が高校生・保護者アンケートをまとめ、学校ごとに回収</p> <p>●有効回収数 ①高校生 1887名 ※全問無回答を除く ②保護者 1584名</p> <p>●調査実施 株式会社アンド・ディ ※値は四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある</p>	<p>■高校生</p> <p>●性別 男子48.5% 女子48.4% (無回答3.0%)</p> <p>●高校タイプ 普通科78.0% 専門学科22.0%</p> <p>●地域分布 北海道11.0% 宮城県11.8% 群馬県11.4% 東京都11.3% 三重県11.4% 福井県10.1% 兵庫県12.1% 広島県8.2% 福岡県12.7%</p> <p>■保護者</p> <p>●性別 父親11.0% 母親85.7% その他0.8% (無回答2.5%)</p> <p>●地域分布 北海道8.6% 宮城県12.2% 群馬県13.4% 東京都7.5% 三重県12.4% 福井県10.7% 兵庫県13.6% 広島県9.3% 福岡県12.1%</p>

図表2 高校生 進路についてどんな話をしているか (よく話をする～時々話をする/複数回答)



※[2015年属性別] 性別別データあり
※[2015年属性別] 希望進路別データあり
※[2015年属性別] 進路対話頻度別データあり
※[2015年属性別] 降順ソート
※2011年以前は「よく話をする～あまり話さない」が回答対象

進路選択の実態

卒業後の具体的な進路、将来の夢、成績が不安な高校生 最新の進路情報をはじめ「入試制度」を調べる保護者

「進路」の会話頻度は高いが、悩みや不安の共有は低い

まず親子のコミュニケーションの実態から探っていく。

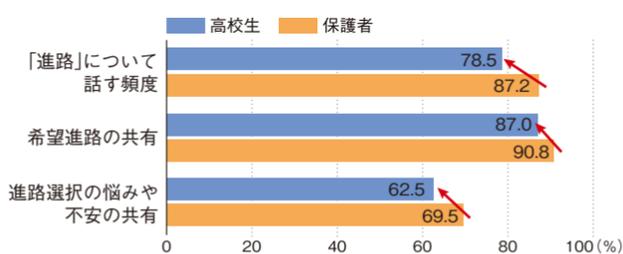
「進路」について、親子の間でいったいどれくらい会話されているのだろうか。会話の頻度は、保護者87.2%、高校生78.5%とスコアは高い。希望する進路の共有についても、親子とも9割前後と高く、親子間で「進路」につ

いての会話は交わされているようだ。しかし、進路選択の悩みや不安の共有となると7割を下回る。親子のそれぞれの認識にもギャップがあることが分かる(図表1)。

では、会話の内容はどのようなものだろうか。「高校卒業後の具体的な進路について」58.1%、「将来どんな職

業に就きたいか」54.8%、「将来の自分の夢」44.7%、「現在の成績について」38.9%が上位を占める(図表2)。

図表1 「進路」に関する親子のコミュニケーションの実態



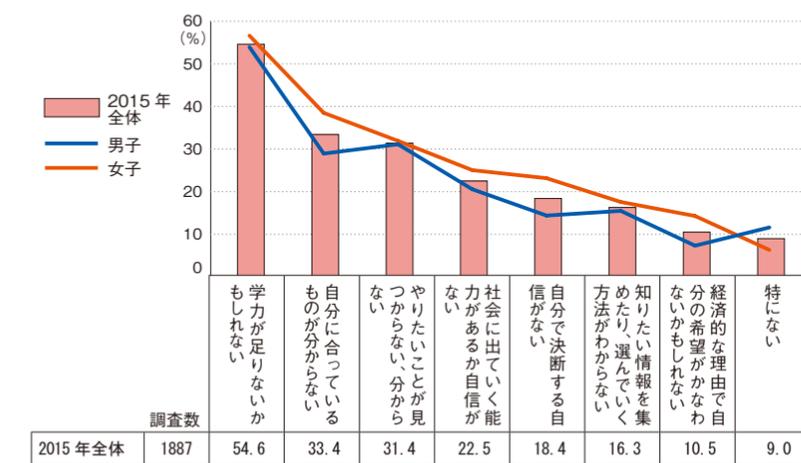
会話の頻度が多い親子ほど、会話の内容も幅広い傾向が窺える。

一方、紙幅の関係上データの掲載は割愛するが、保護者と「話さない理由」についてみると、「面倒くさ

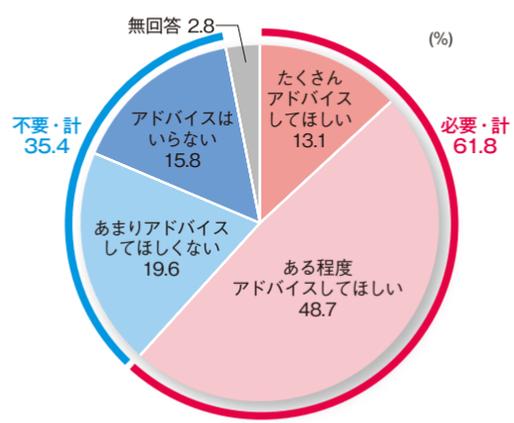
いから」31.2%、「自分が進路についてあまり考えていないから」29.7%、「話しても何も変わらないから」25.6%となっている。「進路選択についての気がかり

(図表3) なことは、「学力が足りない」54.6%が一番高く、以下「自分に合っているものがわからない」33.4%、「やりたいことが見つからない」31.4%となっている。

図表3 高校生 進路選択についての気がかり (複数回答)



図表4 高校生 保護者のアドバイスは必要か？



6割の高校生が保護者にアドバイスを求め、保護者の7割は難しいと感じている

進路選択において、高校生は保護者のアドバイスをどのくらい求めているのだろうか。61.8%がアドバイスを求めており(図表4)、その理由は、「前向きになれるから」「一番近くで支えてくれた人だから、一番なんでも話せるから」「自分で選択するつもりだけど、お金のことが心配」という意見がある一方で、「今の大学のこと等あまり知らないで、言われても納得できない」「今と昔はだいぶ違うので、親よりも姉に聞いたほうが分かりやすい」「無難な職に就かせようしているのが伝わるから」と高校生の複雑な心境が窺える。

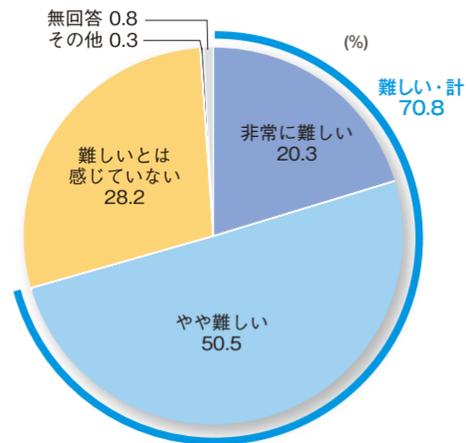
一方、保護者の約7割は子どもの進路のアドバイスが難しいと感じているようだ(図表5)。その理由の最多項目

は、「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」47.5%(図表6)。前回調査で1位だった「社会がどのようなになっていくのか予測がつかないから」45.9%を超えてトップとなった。以下、「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから」28.4%、「子どもにアドバイスできるほど、自分の生き方・考え方に自信がないから」21.1%と続く。

保護者が最も重要視するのは「現在の入試制度の仕組み」

保護者にとって進学検討で最も重要な情報は何かだろうか。2013年の調査同様、トップになったのは「現在の入試制度の仕組み」75.4%(図表7)だ。多様化する各大学の入試制度に大きな不安を抱くと共に、2020年から始まる新しい共通テストの報道等も少なからず影響しているかもしれな

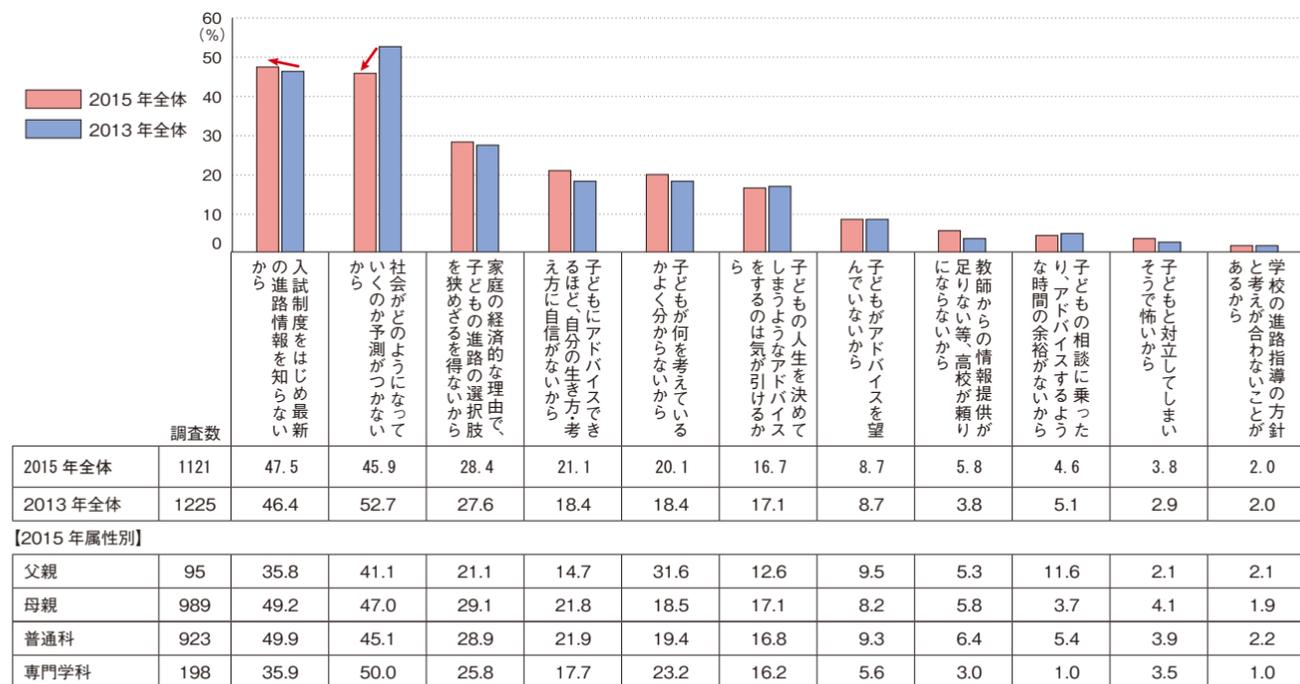
図表5 保護者 進路のアドバイスは難しいか



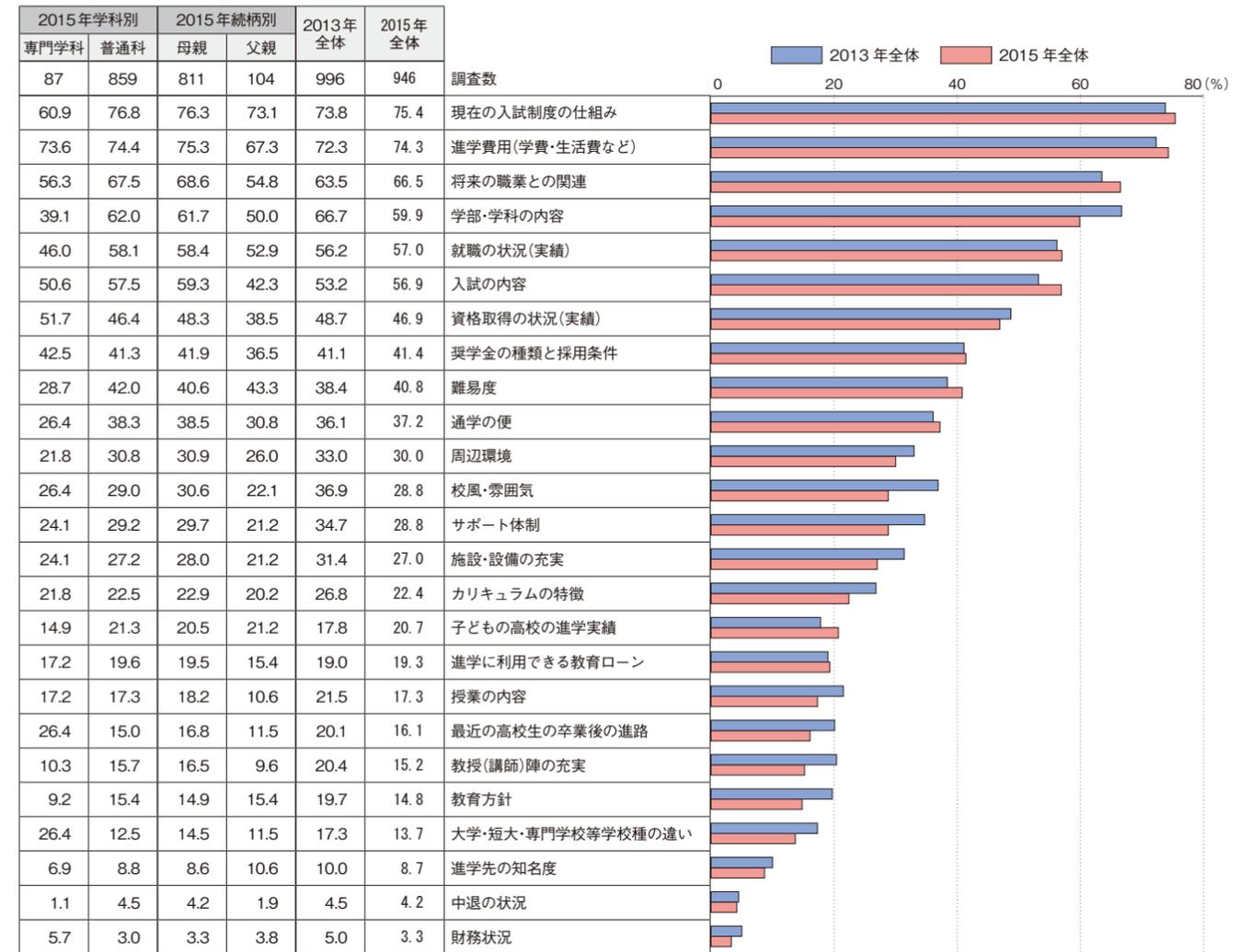
い。とは言え、依然として家計における教育費負担は大きく、「進学費用」の情報も強く求められている。

また、子どもの進路進路選択への関わりを見ても(図表8)、子どもに合う分野をアドバイス、学部・学科や入試方法を調べる等、具体的に関わる保護者像が垣間見えてくる。

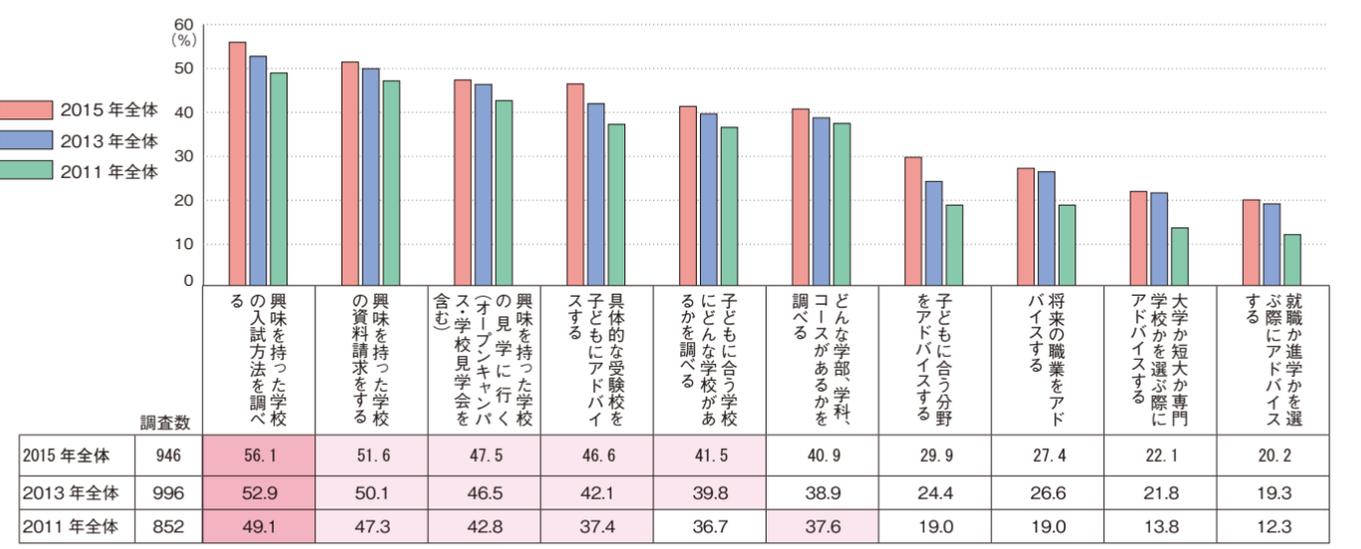
図表6 保護者 アドバイスが難しい理由 (図表5=アドバイスが「非常に難しい」「やや難しい」回答者/複数回答)



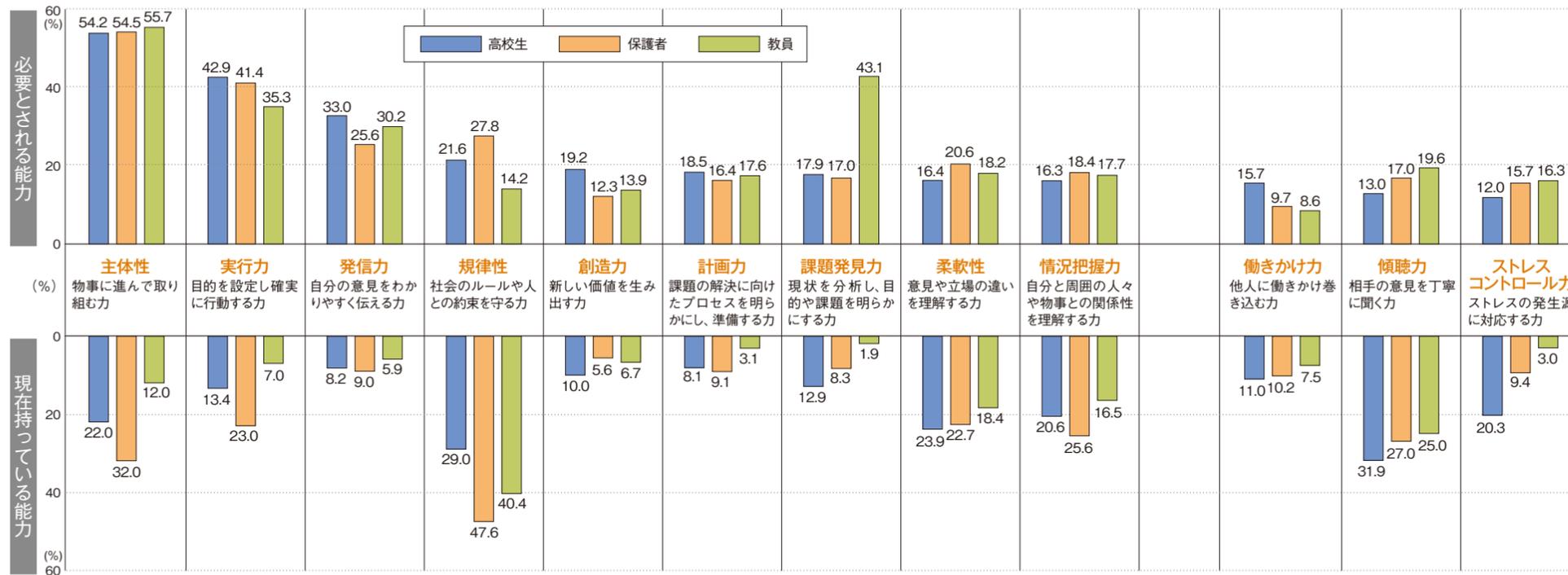
図表7 保護者 進学検討において重要な情報 (子どもを進学させたい希望者/複数回答)



図表8 保護者 子どもの進路選択への関わり方:行ったことがないが、今後行いたいこと (子どもを進学させたい希望者/各単一回答)



図表9 社会で働くにあたって必要とされる能力と現在持っている能力 (各3項目まで複数回答)



きな相違は見られない。

社会で働くうえで必要とされる能力と、現在持っている能力との差に注目すると、高校生・保護者・教員いずれも「主体性」「実行力」「発信力」が浮き彫りになってくるのが分かる。

両者の項目の差は10ポイント以上あり、将来働くうえで必要だと感じているにも拘わらず、現在持っていない能力となっている。

アクティブ・ラーニングの学習の狙いはまだ保護者には伝わっていない

次に、これらの必要な能力を、学校現場ではどこで身につけることができるかと保護者は捉えているのだろうか(図表10)。

上位3項目を見ると、「部・クラブ

活動の時間」66.5%、「校外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等)」56.8%、「文化祭や体育祭等の学校行事」54.4%のように、教科学習以外での時間が挙げられている。

昨今、「アクティブ・ラーニング」による主体的・能動的な学習が話題となっているが、教科学習を通じて「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育てていく、いわゆる「授業改革」について、保護者にはまだ浸透しておらず、その学習効果や狙いは伝わっていない。高校生が最も多くの時間を過ごす「授業」こそが、これらの必要な力を育む場であるという認識の醸成に向けて、高校は取り組み始めているが、同時に高等教育機関にも求められている。

将来に必要な力

「主体性」「実行力」「発信力」が子どもに不足 保護者の期待は教科の時間より文化祭や体育祭等の教科外活動

高校生・保護者・教師が考えるこれからの社会に必要な力は「主体性」

将来、社会で働くにあたって、保護者はどんな能力が必要だと考えているのだろうか。また、わが子が持っている能力をどう捉えているのだろうか。高校生本人と教員の見解とともに確認してみたい。

経済産業省が提唱する、12の能力要素から構成される「社会人基礎力」について、高校生・保護者・教員*それぞれに「社会で働くにあたって必要とされる能力」と「現在持っている能力」について、その見解を調査した。

*教員は「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査(2014)より」

「将来、社会で働くにあたって必要とされる能力(図表9上段)」のトップは、高校生・保護者・教員それぞれ「主体性」。三者ともに同じ見解という結果となった。

2位については、高校生と保護者が「実行力」に対して、教員は「課題発見力」であった。変化の激しいこれからの社会の中で、自ら課題を発見し、解決に向けて取り組む力が必要だと捉えている。保護者との意識のギャップを埋めるには少し時間を要すると思われると同時に、その解決には保護者に向けた情報発信も大切になってくるのではないだろうか。

3位については、高校生が「発信

力」に対して、保護者は「規律性」、そして教員が「実行力」となり、三者の見解が分かれる結果となった。

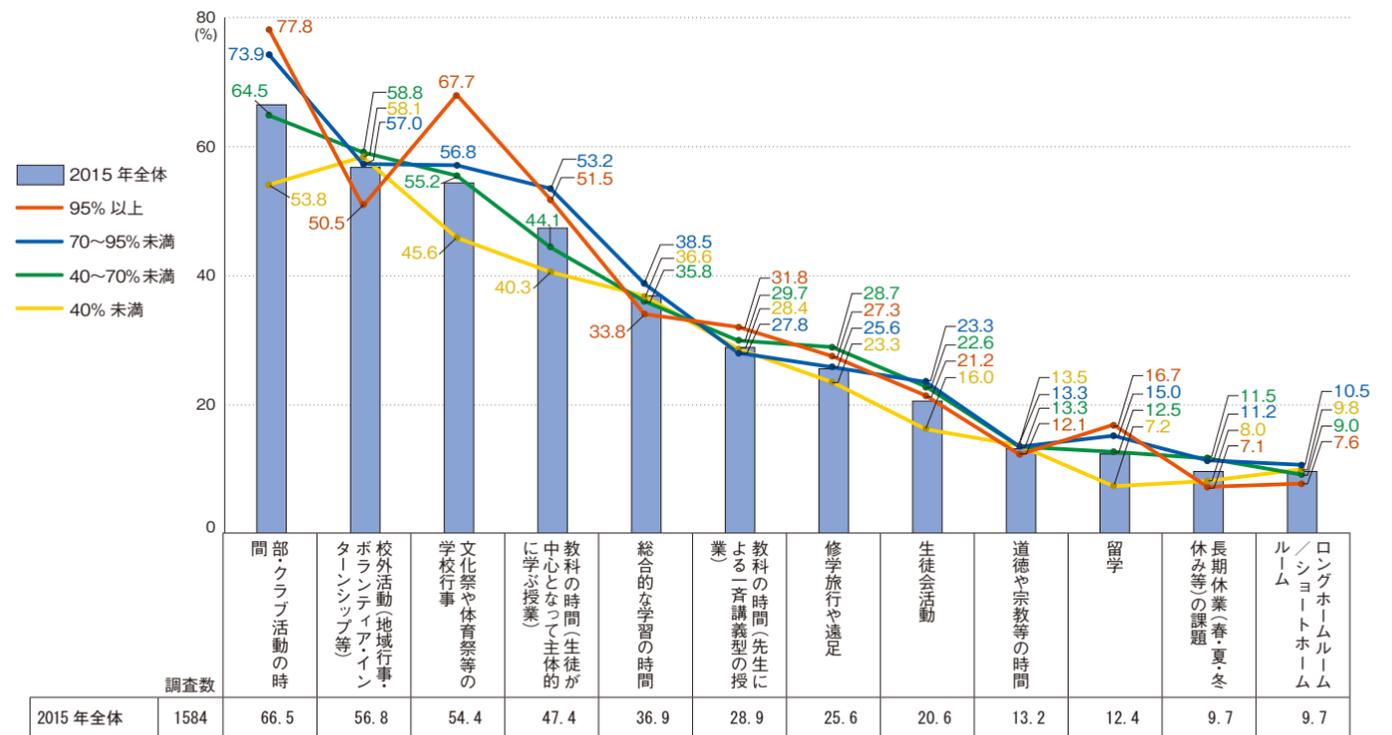
高校生に足りない能力は「主体性」「実行力」「発信力」

では、「現在持っている能力」についてはどうだろうか(図表9下段)。

保護者と教師はともに「規律性」がトップに対して、高校生は「傾聴力」となっている。

2位以下については、高校生が「規律性」「柔軟性」、保護者が「主体性」「傾聴力」、そして教員が「傾聴力」「柔軟性」と続いており、順位の違いこそあるものの、上位項目の顔ぶれに大

図表10 保護者 必要な能力を身につけるのに有効な場 (大短進学率別/複数回答)



将来社会の展望

肯定的に捉える高校生が約半数と前回調査より上昇
保護者は半数以上が「好ましくない社会」と捉えている

高校生と保護者で異なる
これからの社会に対する認識

これからの社会について、高校生・保護者はどのように捉えているのだろうか。未来社会についての認識を訊ねてみた(図表11)。

「とても好ましい」「まあまあ好ましい」の合計で約半数に当たる48.1%の高校生が「好ましい社会だ」と回答していることが分かった。これは、前回調査(2013年)よりも6.2

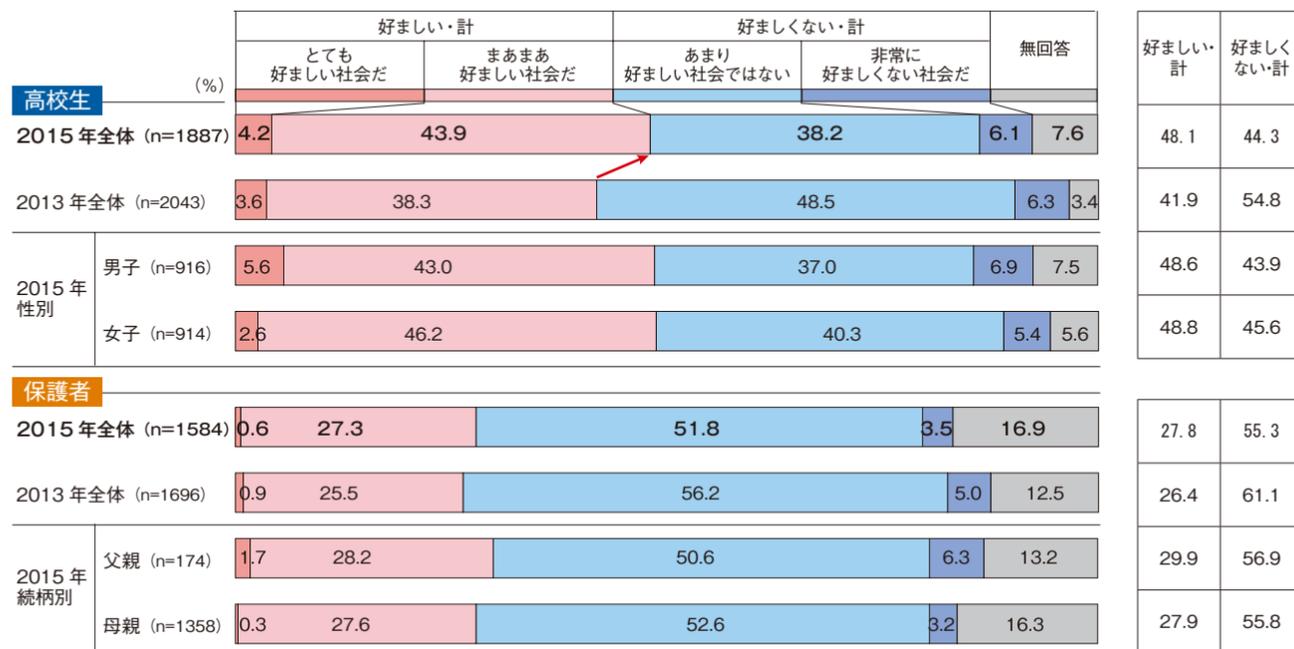
ポイント上昇している。

反面、「非常に好ましくない」「あまり好ましくない」の合計で44.3%が「好ましくない社会だ」と回答。こちらは前回調査よりも10.5ポイント減少している。理由については下のコメントを参照頂きたい。景気回復の兆しやグローバル化の推進、中にはオリンピックによる経済効果等から、就職環境が良くなることを期待する声も挙がっている。

一方、保護者については、「好まし

くない社会だ」が55.3%と過半数に達し、「好ましい社会だ」27.8%を大きく上回る。ダイバーシティの推進等で多様な働き方が広がり、保護者の時代よりも、より選択肢が多い社会に対する期待の声が挙がっている一方で、国の財政、少子化、年金問題、増税、原発やエネルギー問題、国際社会情勢の不安等、様々な不安要素にあふれていることを危惧する声が多く、明るい未来社会のイメージを描ききれないようだ。

図表11 未来社会についての認識(単一回答)



コメント

【高校生】

- 好ましい
 - オリンピックで雇用が増えると思うから。
 - グローバル化が進み、もっともっと多くの人と関わることができるから。
 - 若い人が少なくなるので頼りにされそうだから。
- 好ましくない
 - 年金制度が充実しないこと、税金が上がること、一度会社を辞めると就職ににくいこと等。
 - 大学へ進学しても就職できるわけではない。学費が高過ぎ。
 - 労働時間が多すぎる。サービス残業なんてしたくない。

【保護者】

- 好ましい
 - 他国と比べて、コンプライアンスの意識が高く、平等な競争ができる。
 - 女性も資格や技術を身につけ、今以上に社会進出していきそうだから。
 - 世界に目を向けられる時代だから。
 - 希望を持ってほしいので、そう思いたい。
- 好ましくない
 - 経済成長が見込めないうえ終身雇用ではなくなってきているから。
 - 格差が広がるばかりだから。
 - 非正規雇用の会社が増え生活が不安定となるため。

就きたい職業

高校生は「教師」 保護者は「公務員」がトップ
親子とも変わらない安定的思考

図表12 高校生 将来就きたい職業(単一回答)

全体 (N=992)			男子 (N=407)			女子 (N=565)		
順位	職業	%	順位	職業	%	順位	職業	%
1	教師	8.6	1	公務員	15.5	1	看護師	11.5
2	公務員	8.3	2	教師	11.3	2	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	9.6
3	看護師	7.3	3	製造業(自動車・造船等)	9.3	3	教師	6.7
4	製造業(自動車・造船など)	6.5	4	建築士・建築関連	4.4	4	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	4.6
5	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	5.9	5	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	3.9	5	薬剤師	4.4
6	建築士・建築関連	4.3	6	エンジニア・プログラマー・IT関連	3.2	6	管理栄養士・栄養士	4.2
7	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	3.3	7	技術者・研究者	2.7	7	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	3.2
8	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	3.2	8	画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連	2.0	8	公務員	3.2
9	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	3.2	9	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.0	9	空港職員・航空関連	3.2
10			10	薬剤師		10	ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル	
				美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連				
				会社員				

図表13 保護者 就いてほしい職業(単一回答)

全体 (N=212)			子どもの性別：男子 (N=100)			子どもの性別：女子 (N=111)		
順位	職業	%	順位	職業	%	順位	職業	%
1	公務員	27.4	1	公務員	40.0	1	看護師	23.4
2	看護師	12.7	2	医療関連全般	10.0	2	公務員	16.2
3	医療関連全般	9.4	3	教師	9.0	3	医療関連全般	9.0
4	教師	8.5	4	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	8.0	4	教師	8.1
5	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	5.2	5	医師・歯科医師・獣医	5.0	5	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	6.3
6	放射線技師・臨床検査技師	4.7	6	放射線技師・臨床検査技師	4.0	6	薬剤師	4.5
7	薬剤師	4.2	7	製造業(自動車・造船など)	3.0	7	放射線技師・臨床検査技師	4.5
8	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	3.3	8	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.0	8	管理栄養士・栄養士	3.6
				技術者・研究者			社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	
				弁護士・裁判官・法律関係			会社員	
				会計士・税理士・行政書士				
				薬剤師				
				建築士・建築関連				
				会社員				

共通のキーワードは「安定」

将来の職業について、高校生と保護者はそれぞれどのように考えているのだろうか。

高校生の「就きたい職業」を見ると、「教師」がトップで「公務員」「看護師」と続く(図表12)。理由としては、教師:「ジュニアインターンシッ

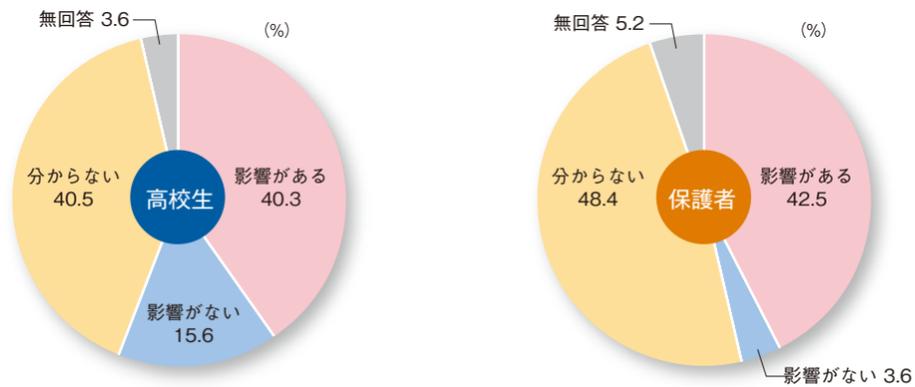
プでの経験でより多くの子どもの笑顔を見たいと思ったから」、公務員:「町の行政に関わる事務をしたいと考えているから」、「安定した収入、辞めさせられにくく、地域に貢献できるから」、看護師:「人を助けたいし、仕事が安定している」等、「安定」というキーワードが目につく。

他方、保護者がわが子に「就いてほしい職業」では、「公務員」「看護師」

「医療関連全般」が挙がる(図表13)。理由としては、公務員:「安定している。結婚、出産したあと、職場復帰しやすい」、看護師:「就職に困らない、社会に貢献できる」、医療関連全般:「国家資格を身につければ、全国どこでも働くことができる」等、ライフイベントも視野に入れながら、長く安定的に働けるという理由が多い。

グローバル社会への影響を感じつつも、「グローバル人材」への意向は親子で異なる

図表 14 将来の社会・経済のグローバル化の影響



親子ともに4割がグローバル化の影響はあると回答

グローバル社会と言われて久しいが、高校生や保護者はその影響をどのように捉えているのだろうか。子ども達の将来に社会・経済のグローバル化は影響があると思うかについて訊ねてみた結果がこちらだ(図表14)。

高校生・保護者ともに、4割以上がグローバル化は「影響がある」と回答するも、高校生の40.5%、保護者に至っては約半数に近い48.4%が「わからない」と回答している。

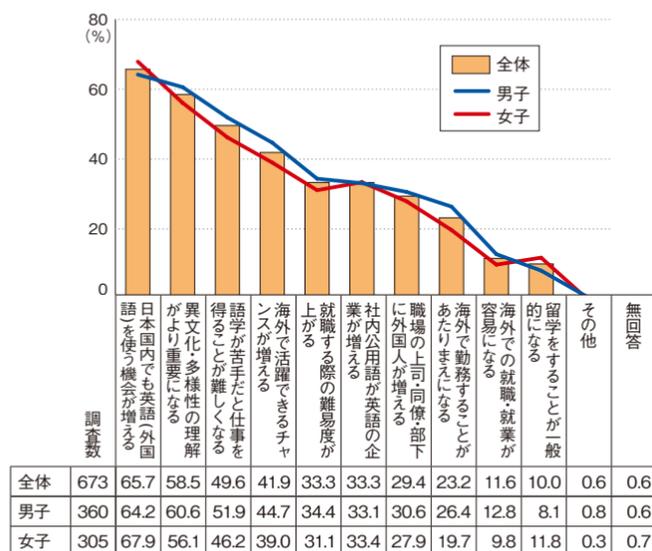
では、いったいどのような影響があると感じているのだろうか。

高校生・保護者とも「日本国内でも英語(外国語)を使う機会が増える」が

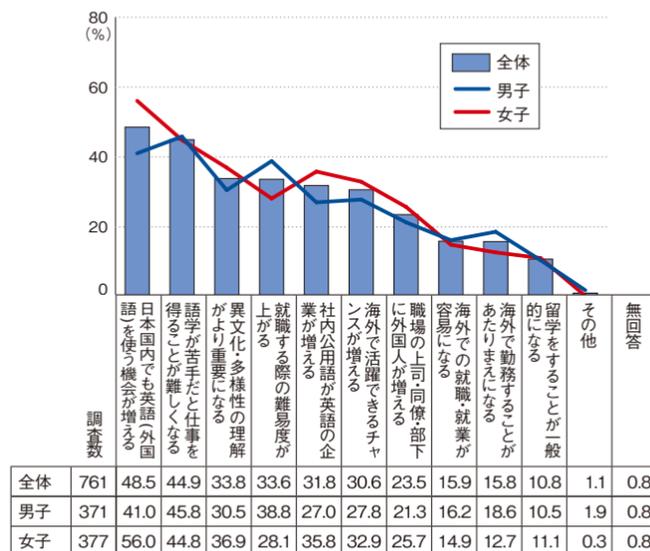
トップ。さらに「異文化・多様性の理解がより重要になる」「語学が苦手だと仕事を得ることが難しくなる」が続く(図表15.16)。

注目したいのは、「就職する際の難易度が上がる」という回答が高校生の4位にランクインしていること。もはや就職シーンにおいても国内だけでなく、世界の優秀な人材と競うことにな

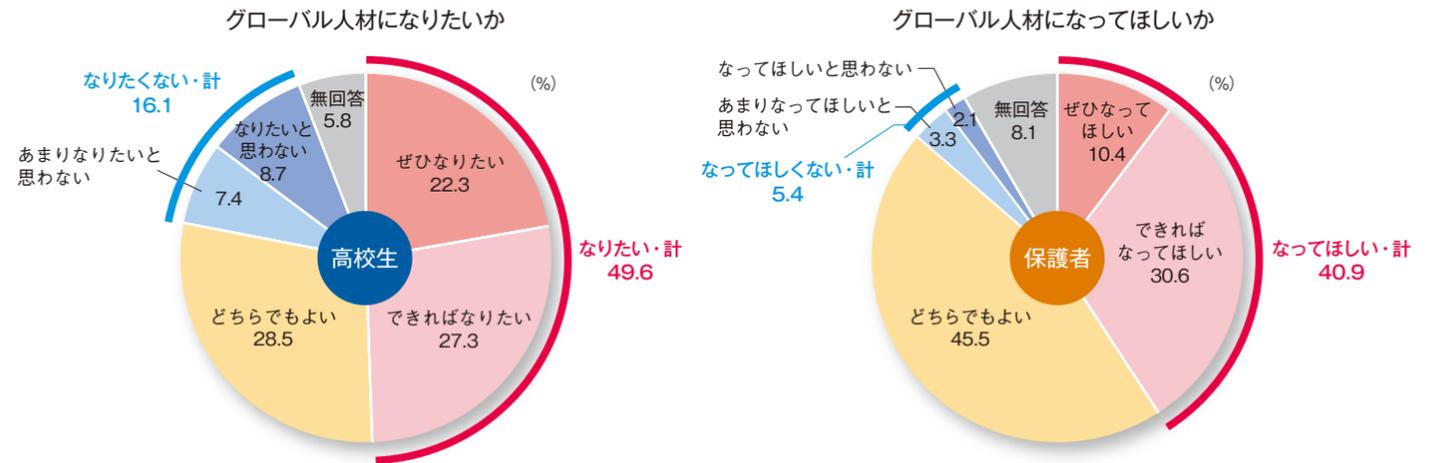
図表 15 保護者 グローバル化による子どもの将来への影響 (グローバル化の影響「ある」回答者/複数回答)



図表 16 高校生 グローバル化による自分の将来への影響 (グローバル化の影響「ある」回答者/複数回答)



図表 17 グローバル社会で通用する人材になりたいか



【高校生】

■なりたくない

- 将来は、英語がしゃべれてグローバル社会で通用しないと安定した仕事には就けないと思うから。
- 色々な人の考え方や価値観を理解して、それを自分の仕事に活かしたいから。

■なりたくない

- 海外は怖いから。日本にいたいから。
- グローバル社会の意味がよく分からないから。
- 自分の将来の夢に関連がないから。
- 日本に貢献したいから。

コメント

【保護者】

■なりたい

- グローバル化進展は不可避であり、第一線で活躍するうえで、グローバル社会に通用する人材であることは、必須。
- 経験が増え、人としての厚みが増す。知識が豊富になる。他人種、他職種との連携により若い頃の可能性にチャレンジしてもらいたい。

■なりたい

- 治安に不安がある。子どものやりたい分野は日本でも、必要としてもらえる所はたくさんあるから。
- 本人に興味があれば背中を押すが今のところあまり興味がなさそうなので。
- 主人の会社を手伝ってほしいから。

ると想像しており、単に語学(英語)が話せるだけでは通用しないと感じているようだ。

グローバル人材への意向は保護者よりも高校生が勝る

グローバル社会で通用する人材への意向(高校生:なりたい、保護者:なりたい)についてはどうだろうか。

高校生の約半数の49.6%がグローバル人材に「なりたい」と思っている。保護者も40.9%が「なりたい」と願っている反面、45.5%が「どちらでもよい」と回答している(図表17)。わが子がグローバル社会で通用する人材になれるか、保護者の認識にも

差が表れている。

今回の調査を通じて見えてきたのは、子どもの進路選択に意欲的に関わろうとする保護者の姿だ。

冒頭にも記したが、高校生の保護者達は、激化する受験戦争の中で育ち、社会に出てほどなくしてバブル経済の崩壊を経験している。その後、30代でITバブルが訪れるものの長くは続かず、世界の産業構造は大きく変化する社会に直面。そして、40代に入るとリーマンショックにより、さらに不況の時代を経験する。まさに、激動の時代を生き、景気の浮き沈みを経験したからこそ、「自分の子どもには失敗をさせたく

ない」という意識が強く働いている。

こうした世代観を持つ保護者だから、子どもの進路選択において多様化する「入試制度」を不安視し、最も重要視している。と同時に、保護者が重要だと考える情報の上位5位「入試制度の仕組み」「進学費用」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況(実績)」の情報不足が指摘されている。いずれも保護者の時代とは随分変わってきており、保護者の葛藤が窺える。

このような観点を踏まえながら、保護者への情報提供のあり方について今一度、見直してみることが大切かもしれない。